

第5分科会 「青年技術士の役割」 ～時代を拓く技術

第1部 北海道における先人技術者の貢献



丹治和博 技術士

●先人技術者にみる挑・生・創・起

- ・今回、私たちが拾い集めた先人技術者は、すべての分野や重要な先人すべてを網羅した訳ではなく、社会貢献を実践した技術者のほんの一例を紹介したに過ぎませんが、ここで大切にしたいのは、1つひとつの技術が生まれた時代背景と、なぜその技術が評価されているのか、を知ることでした。
- ・そのような観点から、我々は、先人技術者に、挑（北海道の理想社会を描いて未開の大地に挑む）・生（豊かな自然や環境との共生を目指す）・創（地域に根ざした生産基盤を創造する）・起（北海道の特色を生かした産業や企業を起こす）の言葉に代表される精神や取り組みを見ることができました。
- ・“その時”の先人技術者は、青年技術者であり、“これから”私たち青年技術士が担うべき役割を強く認識しました。



谷村昌史 技術士

●弾丸道路・高橋敏五郎

- ・技術的条件・時間的制約・地域的特性を総合的に判断し、既成にとらわれない判断と決断、ローカルスタンダードが求められる昨今では、学ぶべき点は多い。



古屋温美 技術士

●ホタテガイ・木下虎一郎

- ・現在でこそ、サロマ湖はホタテガイの一大生産地ではあるが、この豊かな資源を育んだのは、技術者・研究者・漁業者の地域的な連携があったことを、忘れてはならない。



小澤直正 技術士

●鉄道防雪林・大村卓一

- ・大村が育てた鉄道防雪林は、今なお北海道の鉄道輸送を守る。現在の雪国の経済活動、市民生活の基礎となった先人の努力を歴史に埋もれさせてはならない。



佐倉 肇 技術士

●健土健民・黒沢西蔵

- ・「健土健民」の精神は、「循環型農法」の提唱であり、現在の農業への警鐘でもある。『今こそ、土を復活させろ』、『食について真剣に考えろ』と西蔵の怒る声が聞こえる。

第2部 現代の技術者の取り組み（各支部からの発表）



東北：三浦康二 技術士

●「災害対策テントシステム」について

- ・大規模な自然災害が発生した場合などの本部等設営などの上で、従来品と比べて優れたテントシステムについての紹介



北陸：小見直樹 技術士

●新潟市下町のまち歩きを通して「暮らし」を考える

- ・「まずは生活者の視点に立って物事を考えていくことが重要」との認識のもと企画・主催のされた「まち歩き」についての紹介



中部：坪内恭史 技術士

●「持続可能な交通を考える WG (TMO)」

- ・「持続可能な交通の姿」を求めるメンバーが集まり発足されたTMOの交通ゲーム等のユニークな活動紹介



近畿：大氏正嗣 技術士

●技術と美の関係について

- ・社会に「美」的な存在を取り入れることで、無意識のうちに小さな発見や心を踊らせるような空間を作り上げていくためにできる技術についての紹介



中四国：森岡敬士 技術士

●土地区画整理事業に伴う交通施設計画

- ・駅南側貨物ヤード跡地における土地区画整理事業に伴う道路網計画を中心とした交通施設計画についての紹介



九州：田辺 努 技術士

●九州新幹線の効果と技術

- ・平成16年3月13日より部分開業（新八代～鹿児島中央間）された九州新幹線における車両開発等についての紹介



本部：野村 貢 技術士

●わが国のトンネル技術史

・1874年の石屋川トンネル（開削工法）、1879年の逢坂山トンネル（水平坑としての山岳トンネル）など、わが国のトンネル技術史の紹介



北海道：中村和正 技術士

●酪農地帯の水質保全に対する緩衝帯の活用

・緩衝帯があると窒素17%、リン24%の流出が低減するといった効果がある酪農地帯の水質保全策について紹介



北海道：松沢 勝 技術士

●冬道を安心して運転するために

・北海道では吹雪による視界不良が危険と思う人が約7割。吹雪に巻き込まれないように迂回してもらう為の広域情報提供サービスや注意喚起システムを紹介

●今回寄せられたレポートについて

・今回、全国から寄せられたレポートは、実に41編にのぼり、防災・交通・安全・環境・地域再生・産業振興などといった『技術領域』と、基礎研究・基本調査段階から、システム開発・技術開発段階、さらには実務・施工・商品開発段階に立ち向かう『技術士の姿』が明らかになりました。

第3部 未来にむけて（ディスカッション）



東北：藤川洋一 技術士



北陸：堀田 亨 技術士

●未来を開く技術領域と技術士の姿

- ・まず、各パネラーから、『それぞれの地域における特徴的な技術領域や特色ある取り組みと、今後必要・重要となると考えられる技術領域や取り組み』について話して頂きました。
- ・ここでは、地域的な特色と同時に、全国・全世界に求められる卓越した技術者の話を伺うことができ、さらに「今後必要となる技術領域や取り組み」に関する将来予測も披露されました。
- ・次に、パネラーの方々1人ひとりから、『そのような技術領域や取り組みを支える技術士はどのような姿なのか』について、話して頂きました。
- ・特に、“技術士の姿”として、倫理の持ち方や経験の積み方、組織との関係のあり方などの観点から多様な意見が出され、『今後目指すべき技術士像』に関する提案も披露されました。
- ・最後に、会場との質疑応答を行い、パネラーの人的な地域性が感じられる充実したディスカッションとなりました。



山崎さん説明（1部）



中部：比屋根均 技術士



近畿：佐藤文彦 技術士



質疑応答（2部）



中四国：森岡敬士 技術士



九州：田辺 努 技術士



久保さん説明（3部）



本部：野村 貢 技術士



北海道：椿谷敏雄 技術士



コーディネータ：今野 亨 技術士



司会：天沼宇雄 技術士

まとめ 北は北海道から南は九州、そして全国の未来へ



開会あいさつ：椿谷会長（北海道）

- ・開会にあたり、北海道の椿谷会長から「我々は、自らの置かれた時代的背景、地域的特性を意識し、分野的・空間的に広域化・複雑化する社会的要請に対して必要となる新しい技術領域を開拓しよう」と呼びかけがありました。
- ・閉会においては、九州の田辺会長からの「濃い議論ができた。来年、福岡での全国大会頑張る。21世紀最初の四半世紀を子供たちにバトンタッチしていきたい。日本を元気にしよう。我々にできることは小さくない！」という未来宣言が出されました。



未来宣言：田辺会長（九州）